

三重大学 人文学部

法律経済学科

特殊
講義

「協同組合論」



村田 智広／三重県農業協同組合中央会 企画総務部課長

「食」と「農」からみた協同組合

第6回（11月14日）：受講52名（受講生44名・聴講&スタッフ8名）

三重県内には9つのJAと事業別に県連合会がある。三重県農業は多彩な品目が生産されているが、担い手の確保・育成、世代交代に伴う農業承継、地域の農業への理解促進が課題である。JAでは経営環境の変化への対応や組合員との関係強化が課題である。農業生産・JA組織経営基盤の確立、地域農業の振興と地域社会の活性化に貢献するためJAは自己改革をすすめている。

【講義の主なポイント】

- ・JAの組合員は、正組合員と准組合員に分けらる。正組合員は農業者であり、准組合員は県内JAの地区に住む個人かJAを利用している方となる。正組合員と准組合員はそれぞれ10万名強であり平成28年度に准組合員数が正組合員数を上回った。正組合員は高齢層が多く次世代への継承が課題である。
- ・JAグループ三重は、県内9つのJAとJA三重中央会、JA三重信連、JA三重厚生連JA全農三重県本部、JA共済連三重県本部で構成している。JAでは営農指導、販売、購買、厚生、信用、共済などの事業をおこなっている。
- ・豊かでくらしやすい地域社会の実現に向け、ライフラインを支え、世代に応じた取り組みを、JAくらしの活動としてすすめている。他団体との連携や、食育を組み合わせた食農教育、地域の居場所「ふらっとほ一む」などを各地ですすめている。JAが地域に必要とされる存在になることが大事である。
- ・三重県内では水稲など多彩な農業が営まれている。多くの品目で生産量は全国平均の水準であるが、お茶は全国3位、小麦は5位の生産量を誇る。一方で米の1等米比率、園芸を中心とした生産額の伸び率は全国で最下位に近い。大規模農家（販売金額1億円超）と小規模農家の二極化もすすんでいる。
- ・政府主導による農業・農協改革があり、JAは農業振興と地域振興を両輪に自己改革をすすめた。組合員への最大の奉仕、協同組合らしく地域の貢献、協同組合活動でJAと農業への理解を深めていただくことが必要である。
- ・日本では協同組合の認知度が極めて低い。理念だけではメシは食えない。経営体として成り立ってこそ事業・活動が展開できる。協同組合の職員は「労働者」であるとともに「運動者」であり「連結者」である。

第6回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

Aさん（2年生）

三重県の農業は盛んであるという印象を勝手に持っていたのだが、兼業農家が多いこと、農業所得が全国より低いこと意外に感じました。しかし、いつも私たちがいたっている農産物が、とても安いことに不思議に（どうして農家の方では生計がたっているのか）思っていたので、納得のデータもありました。ただ、データの中でも小豆が上位5位に入っていたことは驚きました。作物の恩恵を受けている立場として農業支援に力を入れていたことにはとても良いなと思いました。次に協同組合について、算を重ねるにつれて周囲の力を借りないとうまく行動できないことが特に考えさせられました。「JA」の組織への理解についての課題がありました。JA正組合員の理解が低いことがJAの事業を進める課題になることがわかりました。立場の異なる組合員全員に納得してもらえないことではないという役割はとても難しいのだなと講義を重ねるにつれて感じました。

Bさん（2年生）

今回の講義をお聞きして、JAの活動や現状を通じ三重の農業に内在する問題を知らることができました。三重の農業には生産者の少なさやJAの経営難などの課題を抱えており、その根底には継承者の不足やJAの利用率が足りないことがあると感じました。この課題を解決するために、三重の農業を地域住民、利用者に周知させることが重要であると感じます。小麦や茶などは三重の農業の強い部分を県民自身に知らせたい、誇りを持つもらうことで生産者の農業への関心を高める必要があるのではいかと思いました。また、この日の一連の講義で痛感したことは、自分も含め協同組合員が組合の一員である自覚を持つ、知り合いの組合員が何かをすれば「重要だ」と感じることです。

Cさん(3年生)

農協は、農業者の組合員のための活動をやるイメージが強かったのですが、農業者以外の組合員、地域とのつながりや、助け合いの活動など幅広くニーズをこたえているのだなと気づきました。

農業者、生産物の質の低下による、農業の危機は確かに国民全体にも関わる大きな問題ですが、二本柱の農協の活動から分かる通り、農業者だけにしぼりない取り組みや、協同組合にしかできないことが沢山あると思いました。

むしろ、国民全体に関わる問題だからこそ、農業者育成だけでなく地域の理解や広げることによって支え合う必要があると感じます。

「農協の役割や、実際の貢献度について、知識が知れなすぎる」という点は、本当にその通りだと思いました。私も子供の頃から農協で買い物をしていましたが、家族も私も、そのような意識はなかったです。知識が上がり正しい評価をされることは、より大きな活動へのつながることになるだろうと思いました。

Dさん(2年生)

偶然、多く紹介されていただけかもしれませんが、三重県のJAの協同活動は高齢者向けのものが多く感じた。高齢化が進んでいるので、地域住民のための活動となるとやはり対象者が高齢者になるのだろうと思う。JAの組合員も高齢者が多く、健康増進や交流を目的とした活動は今後も重要になってくると考えられる。それに加えて、若者が農業に興味を持つことも大切であるため、若者向けの活動も大きな興味をもつだろうと感じた。

三重県のJAは多くの課題があり、それらの解決のために努力していることが分かった。大きな貢献をすることは簡単ではないが、JAの事業について理解を深めることは私にもできるもので、今回の講義で学ぶことができてよかった。三重県の農業は多彩であることが特徴と知り、それは強みであると感じたので、全国に広まってほしい。

Eさん(2年生)

これまで聞いてきてコアメンバーもJAも高年齢の方によりよい活動がしっかりしているなというイメージを持ちました。

JAを通じた方が良いメリットがあるはずなのになぜ役員の人がこんなにいるのかが疑問に思いました。

協同組合の良いところは正組合員・准組合員のニーズを答えているところかと思いますが、正組合員のニーズからよく取り入れられているのかと感じました。

まずは、正組合員の意見が取り入れられるようにすることがまず大切なのではないかと感じました。

Fさん(3年生)

JAは農業だけでなく総合事業として、地域包括ケアや金融事業 教育活動といった多岐面の活動について理解が深まりました。また、農業の担い手不足、経営規模の二極化、農業産出額が定額全国最下位など、現状抱えている課題を、決算書より、信用事業に依存した今の経営を、そこから対処していく必要があり、改革、改善にせざるを得ない状況が分りました。そして、政府から農業振興を重点に果たした改革の要請と、その後の自己改革について、農業振興と地域振興をかけた、総合事業として地域への農業の両方と支えと重要性を存在を感ずりました。

Gさん(2年生)

- ・三重県は、都市に比べて、土地もたかぬあるし、名古屋や大阪などに近く地理的優位性もあるのに、データで見ると農業が盛んとは言えないという現状を聞いて、三重県の多彩な農業を盛んにしていこうと努める。JA三重にとっても魅力を感じました。
- ・協同組合といわれると、第一に利用者の得を考えて事業を営み、自らの利益は二の次にしたというイメージだったが、JA三重土庫の貯蓄がそこそこあると聞いたときは、やはり農業関係の組合にはニーズがあり、またそれに対するJA三重の取り組みが素晴らしいから、成り立つのだなと思ったし、その上には利益にあたりながらのこととしていかなければならないかとも思っていた。また、それはJA三重が、協同組合が地域や消費者などと近い存在であるからできることであるかと思っりました。

Hさん(2年生)

農業面での収益が出づから、信用事業がなくては経営が出来ない状況から、JAの本来の目的通りに経営をしていくことが難しくなっているように感じた。農家のちがちな抱える問題と経営の持続を同時進行させていくことは非常に難しいのだと思った。その中でも、しかし、自由を持つことの重要性を知った。